

7514

作助

SAKUSUKE

事業所名	作助	FAX番号	0561-82-2605
代表者名	加藤 圭史	Eメール	
所在地	〒489-0022 瀬戸市赤津町85	ホームページ	
連絡先	0561-82-2505	部会名	陶芸部会

我が家は陶祖伝来の家系ですが、江戸末に初代「作助」を名のり、父で5代目になります。現在は、黄瀬戸や織部を中心に制作していますが、御深井・古瀬戸・志野もやっています。和食器全般・御茶道具が主流で、茶懐石の向附なども評価をいただいております。

またオーダーでの作陶もいたします。和食器以外でも「このような料理をのせる器が欲しい」と言われれば喜んで対応させていただきます。プロの方でも家庭食器としても、当窯の器で美味しく食べていただけたら、10年20年と使っていただけることは実に嬉しいことです。陶器というのは、作り手は8割までで、残りの2割は使うお客様が仕上げるとも言います。使い込んだ物に侘び・寂を見出すのは日本独特の美意識です。芸術は鑑賞、するだけではありません。身近に寄り添わせ、日々使うことも立派な芸術です。このような気持ちで、和洋中にこだわらず喜んでいただける作品を作っていきます。

制作方法は基本的に代々変わっておりません。土も鉱山から直接買い付け、当窯で調合します。釉薬も自家調合で、赤津七釉を基本にいろいろ工夫し独自性を出しています。数ものを作るにしても全て手づくりで手間暇をかけます。

この代々伝わる技を継承していきたいと思っています。土や釉薬は、原料が天然であるだけに採れた場所や時期によって変化しており、仕上がりに違いが生じます。当窯で焼かれた歴代の作品と、風合いが変わらないように制作することもひとつの技術だと思います。

父も私も個人作家としても活動しています。

私は愛知県立芸術大学の彫刻科で学び現在に至りますが、そこで学んだ事が私の制作に対する基礎となっています。絵付を描くにしても、彫刻的な見方で草花を観察しています。また彫刻は制作上、素材を深く理解して作品づくりをしますが、この考え方も私の作家としての原点であります。器を道具とするならば、日本人が日々飲んだり食べたり繰り返しのなかで、おのずと使いやすい形が出来てきたのだと思います。その時間が構築した形の意味するところを読み解き、今の暮らしに対応できるように再構築していくのも、私の仕事のひとつです。最近では作家として作品に草花の絵を描かれる方が少なくなりましたが、私は器にこだわり、草花の絵付にもこだわっていきたくと思っています。

作品はデパートやギャラリーなどにも出品し、当窯の陳列棟でも展示販売しております。また、個人作家としても新作を制作し個展などを開催しています。



黄瀬戸向附(舟型) 桐紐向附
織部向附(木瓜) 赤染麦わら手 織部角違向附



黄瀬戸梅紋銘々皿 織部向附(竹)
黄瀬戸皿(松) 織部猪口



瀬戸黒茶器

黄瀬戸草花紋花瓶



赤染麦わら手飯碗 鉄絵飯碗
織部飯碗(蓋付) 黄瀬戸飯碗



瀬戸伊賀皿(葉型) 織部銘々皿
織部銘々皿



黄瀬戸草紋徳利 黄瀬戸ぐい呑 黄瀬戸小鉢



黄瀬戸洋茶碗 織部洋茶碗
織部汲碗 黄瀬戸桐紐汲出碗